

## 推進計画及び取組の評価・検証の仕組みについて

※第1期権利委員会への諮問事項

(1)子どもの権利の保障の状況に関すること

→第7回以降で「子どもの意見表明・参加」に関する審議

(2)推進計画及び子どもに関する取組の検証、改善等の提言に関すること

→第10～12回で審議

(3)推進計画に盛り込むべき理念及び取組等に関すること

→令和4年8月中間答申提出

### 1 目的

子どもに関係する事業について「子どもの権利の視点」から評価を行い、子どもの権利の視点に基づいて事業の改善を図る。

### 2 実施方法(案)

#### (1)単年度の評価

- 子ども総合計画全体については、子ども・子育て会議において議論する。
- 子ども総合計画の「推進計画」にあたる部分(目標Ⅰ「子どもの権利を保障し、子どものすこやかな成長を支援する」が中心)については、子どもの権利委員会において議論する。  
→「子どもの権利の視点」での評価・検証を行う(3「評価・検証における視点」のとおり)
- 権利委員会が随時行う子ども等へのヒアリングについても、単年度の評価に生かしていく。
- 行政による自己評価を実施後、それを踏まえて子ども・子育て会議及び子どもの権利委員会における評価・検証を行う。

#### (2)5年ごとの評価

- 計画全体の達成状況の評価・検証を行う。
- 行政は「取組の方向性」ごとの成果指標の達成状況をもとに5年間の成果を確認する。
- 子どもの権利委員会では、ヒアリング等による定性的な評価を実施する。  
(4「子どもの意見を踏まえた評価・検証」のとおり)

### 3 評価・検証における視点(単年度の評価・検証)

権利委員会では、計画の事業ごとに「子どもの権利の視点」での評価・検証を行う。

→どのような視点で行うかを第 1 期権利委員会で議論し、最終答申に盛り込む。

<参考:豊島区子どもの権利委員会の評価・検証の視点(令和 4 年度)>

- 事業を実施するにあたって、子どもたちからの意見や思いをどのように取り入れ、事業に反映しているか
- 子どもへ事業を広報・周知し、実際に参加・利用まで繋げるためにどのように取り組んでいるか
- 新型コロナウイルス感染症の影響下で、事業継続のため工夫して取り組んだ点、また支障をきたした点

### 4 子どもの意見を踏まえた評価・検証(5年ごとの評価・検証)

権利委員会では、ヒアリングなどの参加型手法を活用した評価・検証を行う。

→ヒアリングの対象や内容について第 1 期権利委員会で議論し、最終答申に盛り込む。